

高校つぶしの条例は撤廃し 西淀川高校・能勢高校 池田北高校・咲洲高校を 存続させて下さい

大阪府教育委員会は9月3日、府立学校条例・再編整備計画に基づいて、府立西淀川高校・府立能勢高校を「再編整備の対象とする」との案を公表しました。また、昨年度は府立池田北高校・府立咲洲高校の「募集停止」方針を、4万名もの反対署名を無視し、決定しました。4つの高校は、地元になくてはならない学校として役割を発揮しています。なくしてしまえば、高校で学びたなくても「行き場のない子」が生み出され、「学ぶ権利」が奪われます。

道理のない高校つぶしは撤回すべきです。

この学校があったから
今の自分がある

「中学時代不登校でこの学校しか行けないと言わされた。でもそこで親身に関わってもらい、大学にも進めた。この学校があったから今の自分がある」(咲洲高校の卒業生の発言)

1万4千名の
署名を提出!

西淀川高校では、子どもたちを成長させる場として大切な役割を果たしている学校をなくさないでと、父母や卒業生、地域住民が、7月に「存続を求める署名」を提出しました。



町議会が
意見書を採択

能勢町では、地元になくてはならない学校を存続させて欲しいと、6月の議会で「能勢高校の存続を求める意見書」が採択されました。



ところが現知事は…!?

「魅力のない学校で定員にも満たず、その学校に通うことは、生徒自身の成長につながらない」

記者会見での発言(9月3日)

子どもたちを傷つける暴言に
関係者から怒りが噴出!

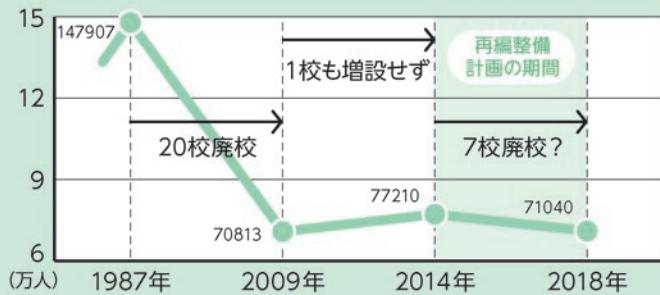
定員は“ゆとり”があって当たり前 高校つぶしの理由には なりません

維新府政のもとでつくられた“教育基本条例”(府立学校条例)は「3年連続定員に満たない学校は再編整備の対象とする」としています。しかし、そもそも高校の「定員」は、希望する子どもたちをすべて受け入れられるように、“ゆとり”をもって設定されています。そのため、一定の学校が「定員に満たない」状態となるのは、むしろ当然です。条例通りに高校をつぶせば、すべての府立高校が不合格者を出し、「どこにも行けない子」が出ることになります。子どもの「学ぶ権利」を奪い、“15の春”を泣かす条例は撤廃すべきです。

生徒数減少はわずか! 廃校は必要ない

大阪の中学校卒業者数は、1987年の14万8千人から2009年の7万人に半減しました。その間に府立高校は20校が統廃合されました。2009年以降は、再編整備計画の完成年度である2018年まで7万人を下回らず、その後、6万5千人程度で下げ止まる予測されています。「生徒数減」はわずかであり高校つぶしの必要などありません。

大阪府公立中学校卒業者数変動と予測



高校進学率No1の 鹿児島県・山形県は 半分の高校が“定員割れ”

全日制高校進学率の高さで全国1位を競っている鹿児島県では県立高校の過半数(55校／95校)が“定員割れ”(2015年度)。同じく山形県では、県立高校の定員の5%の席があいています。定員の“ゆとり”が進学率アップにつながっているのです。

秋田県・福井県では 高校も35人学級で募集

秋田県や福井県では、多くの県立高校が35人学級で募集されています。少子化で校舎にゆとりが出てきたのなら、一人ひとりに行き届いた教育の実現に向けて、現行の40人学級を見直すなど、教育条件改善につなげるべきです。

全国より大規模校が多い 大阪の高校

文部科学省の学校基本調査(平成26年版)に基づいて計算すると、全国の都道府県立高校(全日制)の一学年の学級数の平均は6.1ですが、大阪は8.0と、全国にくらべて2学級程度も大規模となっています。再編整備計画策定に向けて府教委が設置した専門部会でも「1校あたりの学級数を減らすこと(少子化には)十分対応できる」と意見が出されています。

少子化をチャンスに
30人学級・学校規模の縮小など
教育条件の改善こそおこなうべきです

